

this month
HighLight
4
今月の注目

努力は裏切らない

広報かわねほんちようが全国1位・総務大臣賞を受賞

5月12日。本町企画課（広報担当）あてに1通の手紙が届きました。差出人は（社）日本広報協会。本年度全国広報コンクルの特選・総務大臣賞の受賞を知らせる通知でした。全国広報コンクルは、自治体広報活動の向上のために開かれる、各自自治体や団体が発行する広報紙やホームページを対象としたコンクール。同協会が1964年（昭和39年）から開催しています。各部門ごと、企画力、文章力、デザインなどを審査し、特選作品、入選作品などを選出します。今年の審査会は5月上旬に開かれました。その結果、広報かわねほんちようが広報紙（町村の部）で、初の特選・総務大臣賞を受賞しました。

選ばれたのは「地域への愛着心」をテーマとした21年7月号。地域の荒廃農地を、住民憩いの場としてよみがえらせた人々の活動を追



平成22年全国広報コンクール（町村の部）・広報かわねほんちよう審査講評（抜粋）

▶特集では、荒廃した農地を再生して親水公園にした住民の活動を通して「地域への愛着心」を問いかけている。「人」の熱意がよく伝わっている。地域を活性化するには「人の熱指導」がいかに重要か、この特集からしっかりうかがい知ることができよう。▶まずはその地域に確かな活動実績があり、それを丹念に拾い上げてまとめた特集は読み応えがあり、読み手に強く働きかける。広報紙の編集技術以前の、どのような問題意識を持ち、取材を通して、それをいかに具体化するかが問われるということ。編集後記に紹介された、広報紙に対する反応の数々は、その努力を続ける編集担当者だからこそ得られる喜びであろう。▶住民による地域再生をテーマに、公園の整備から景観保全まで多層的に構成。冒頭の見開きにもっとインパクトがあったら文句ない。また「地域への愛着心」というタイトルも直接的表現でイメージの広がりには足りない。とはいえ、特集以外のページも丁寧に編集され、最終ページまで息が切れていないのはさすが。

すべてが、川根本町生まれの「物語」。

いかけた特集号です。記事は「再生」「育成」「創造」の3章立てで構成。地域づくりの原点とは何かについて考えました。受賞は大変名誉なことですが、決して広報紙が評価されたわけではありません。広報紙の中心は、いつの時代も「まちの人」。地域づくりに精を出す人々のたゆまぬ努力、ひたむきな姿勢、あきらめない意志……。そんな「熱意」が高く評価されたのだと思います。

町の歴史を、人々の思いを、広報紙はつづり続けます。必要な情報、役立つ情報を町ホームページが迅速・正確にお届けします。取材に協力してくれる皆さん、情報を提供してくれる皆さん、読んでくれる皆さんに、心から「ありがとう」の気持ちを込めて……。毎月皆さんから、たくさんのお便りを寄せていただきます。ありがとうございます。まだ掲載できていないもの、取材できていないものもたくさん……。また取材に出向きますので、ぜひご協力ください。今後も広報紙・町ホームページをよろしく願います。



川根本町長 佐藤公敏

皆さんのご協力あってこそその広報まさに快挙。

県内では毎年大きな賞をいただくなど、既にトップの評価を受けてきた本町の広報紙が、このほど全国的にも素晴らしい評価をいただき、驚くと共に大変感激しています。

毎号わずかな期間で、評価される広報紙を作り上げてこられたのは、日ごろから見応え・読み応えのある紙面づくりを念頭に置き、情報収集やネットワークづくりに努め、広報紙に情熱をかたむけてきたからだと思います。

そして何より大切なのが「取材に対する皆さんの温かいご協力があったからこそ」の広報紙だということです。

本町は小さな町ですが、毎号紙面を飾る話題を提供してくださる皆さんの多様・多彩な日常が、この町で繰り広げられている証だと考えます。

今後も、生き生きとしたまちづくりのため「住民の皆さんと町をつなぐ広報紙」として、使命を見失うことなく頑張っしてほしいと思っています。